4-121-123-**02**(1)

SONY®

シアタースタンドシステム

取扱説明書

RHT-G550

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 **電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

↓

安全のための注意事項を守る

4～8ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。9ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

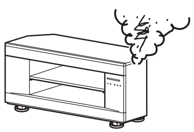
設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



→

❶ 電源を切る

❷ 電源プラグをコンセントから抜く

❸ お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災　感電　指のケガに注意

行為を禁止する記号



禁止　分解禁止　接触禁止　ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示　プラグをコンセントから抜く

目次

⚠警告

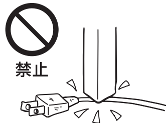


下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

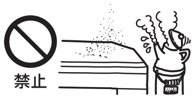
- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものを載せたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



➡ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光の当たる場所には置かない

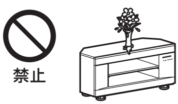
上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



内部に水や異物が入らないようにする

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。本機を水滴のかかる場所に置かないでください。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

➡ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



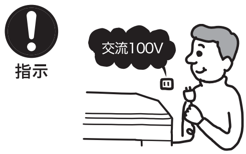
雷が鳴りだしたら、本機や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



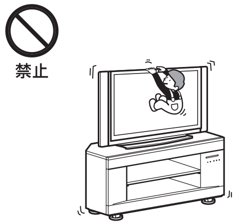
本機を日本国外で使わない

交流 100V の電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



本機にテレビを載せた状態で、寄りかかったりぶら下がらない

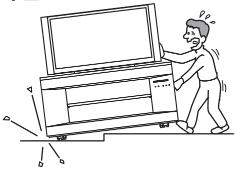
本機が転倒したり、テレビが落下して、大けが、死亡などの原因となることがあります。



テレビや接続機器を設置したまま本機を動かさない

本機を動かすときは、必ずテレビや接続機器をはずしてください。
テレビや接続機器を載せたまま本機を移動させると、バランスを失い本機が倒れ、大けがの原因となります。

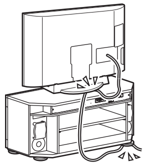
禁止



テレビと本機の間に電源コードおよび接続ケーブルをはさまないようにする

- 電源コードおよび接続ケーブルに傷がついて火災や感電の原因となります。
- 本機を動かすときは、電源コードおよび接続ケーブルが本機の下にからまないようにしてください。
  電源コードおよび接続ケーブルに傷がついて火災や感電の原因となります。

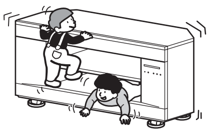
禁止



本機の上に乗ったり、棚板の間に入って遊ばない

お子様が本機の上に乗ったり、棚板の間に入って遊んだりすると、本機が転倒する、テレビが落下するなどの事態が発生し、大けがや死亡の原因となります。

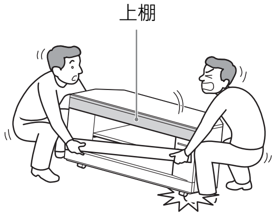
禁止



移動の際、底面を持たない

本機を移動する際、図のように底面を持つと部品がはずれて落下するおそれがあります。上棚の下側をお持ちください。

禁止



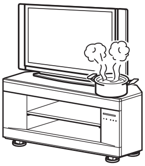
⚠注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

加熱した鍋、湯沸しなど熱いものを置かない

禁止

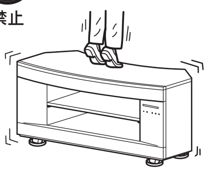
本機を傷める原因となります。



踏み台にしない

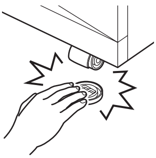
禁止

落ちたり、本機が破損して、けがの原因となります。



キャスターをキャスタートレイに載せるときは、キャスタートレイの上に手を置かない

禁止



キャスターとキャスタートレイの間に手をはさみ、けがの原因となります。

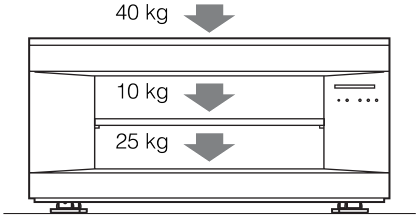
テレビを固定する

固定しないと、テレビが落下したり、本機が転倒してけがの原因となることがあります。この取扱説明書の説明にしたがい、テレビを固定してください。

注意

総積載量についてのご注意

下の図に示す質量以上のものを載せないでください。指定の質量を超えると、天板や底板が壊れることがあります。



ぬれた手で電源プラグにさわらない

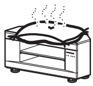
感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止



風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

禁止



布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

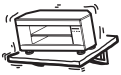
➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。

禁止

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。

禁止



電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



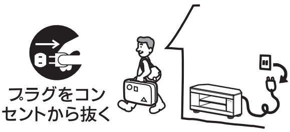
コード類は正しく配置する

電源コードや AV ケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



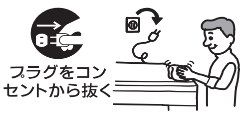
移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



設置上のご注意

- テレビを取り付けるときには、手や指をテレビと本機の間にはさんで傷つけないようにご注意ください。
- 設置場所によっては本機の変形や傾きが生じることがありますので下記のことをお守りください。
  - ➡ 堅くて平坦な床面に設置する
  - ➡ 畳、じゅうたん、カーペットなどの上に置く場合は板など堅いものを敷く
  - ➡ 直射日光が当たる場所や、暖房器具のそばに置かない
  - ➡ 高温多湿の場所や屋外に置かない
- 本機を動かすときは、テレビや接続機器をはずしてから、必ず 2 人以上で運んでください。テレビが落下して大けがの原因となります。移動の際には上棚の下側をお持ちください。また、指をはさまれないようにご注意ください。

使用上のご注意

- 熱いものを本機に置かないでください。熱により変色、変形することがあります。
- 美しい状態でお使いいただくため、お手入れをする際には、やわらかい布で、軽くから拭きしてください。汚れがひどいときは食器用洗剤を 5 ～ 6 倍に薄め、やわらかい布に含ませて軽く拭き取ってください。シンナーやベンジンなどの化学薬品はスタンドの仕上げを傷めることがありますので、使わないでください。
- 本機の足に砂やゴミなどが入り込んだ場合、床を傷つけることがあります。

電池についての安全上のご注意

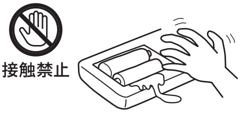
液漏れ・破裂・発熱による**大けが**や**失明**を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。



必ず次の処理をする

➡ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。



➡ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

⚠警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

➡ 電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

➡ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。



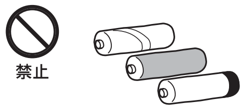
電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



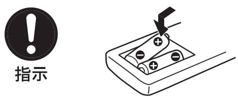
指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



＋と－の向きを正しく入れる

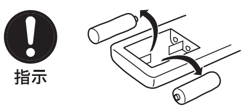
＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



➡ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- 毛の長いじゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残る場合があります。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。

設置時のご注意

本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本機背面の通気孔をふさぐと、機械内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。本機背面の通気孔を絶対にふさがないでください。

音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。
演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本機のお手入れのしかた

キャビネットや天板の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

商標について

本機はドルビー *[1]デジタルデコーダーおよびドルビープロロジック（II）アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS*[2]デコーダーを搭載しています。

*[1] ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
以下が米国AACパテントナンバーです。
Pat. 5,848,391; 5,291,557; 5,451,954; 5,400,433; 5,222,189; 5,357,594; 5,752,225; 5,394,473; 5,583,962; 5,274,740; 5,633,981; 5,297,236; 4,914,701; 5,235,671; 07/640,550; 5,579,430; 08/678,666; 98/03037; 97/02875; 97/02874; 98/03036; 5,227,788; 5,285,498; 5,481,614; 5,592,584; 5,781,888; 08/039,478; 08/211,547; 5,703,999; 08/557,046; 08/894,844

*[2] 米国パテントナンバー：5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,487,535 の実施権、及び米国、世界各国で取得済み、または出願中のその他の特許に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDTS, Inc.の登録商標です。DTSロゴ及び記号はDTS, Incの商標です。© 1996-2008 DTS, Inc. 無断複写・転載を禁じます。

本機は、High-Definition Multimedia Interface（HDMI™）技術を搭載しています。

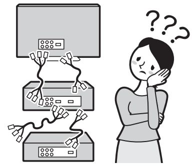
HDMI、HDMI ロゴ、及びHigh-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または、登録商標です。

“ブラビアリンク”および“BRAVIA Link”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

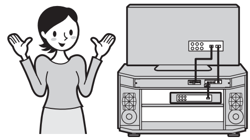
“プレイステーション”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの商標です。

本機の特長

▶HDMIでかんたん接続



たくさんのコードでうんざり…



すっきり接続！（16ページ）

▶テレビのリモコンでかんたん操作（“ブラビアリンク”）



別々のリモコンで操作しなくちゃ…

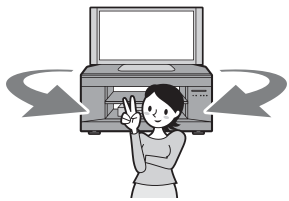


テレビのリモコンで、連携操作！
（30ページ）

▶かんたんサラウンド



スピーカーとコードがたくさん必要…



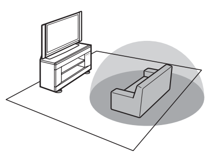
かんたんに、S-Force PRO Front Surroundが楽しめちゃう！

S-Force PRO Front Surroundとは

ソニーがこれまで蓄積してきた膨大な音響データを解析し、独自のDSP技術を加えて開発したフロントサラウンドの技術です。音像の距離感、空間性をより忠実に再現することが可能となり、後方にスピーカーを置くことなく、前方のスピーカーだけで広がりのあるサラウンドを楽しむことができます。

サラウンドサウンドエリア（推奨）

下図のようにフロントサラウンドエリア内で、より効果的なサラウンドを楽しめます。



付属品を確かめる

本機には以下の付属品が同梱されています。

光デジタルコード（1）

リモコン（RM-ANU031）（1）

単3乾電池（2）

結束バンド（1）

キャスタートレイ（4）

棚板（1）

棚板取り付け用ピン（4）

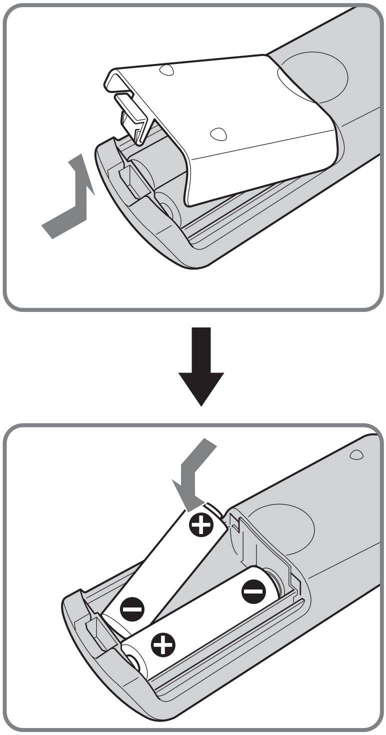
取扱説明書（本書）（1）

保証書（1）

ソニーご相談窓口のご案内（1）

リモコンに電池を入れる

付属のリモコンで本機を操作できます。＋と－の向きを合わせて、単3乾電池（付属）2個を入れてください。



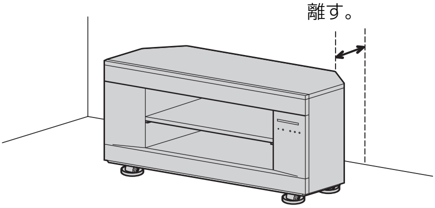
ご注意

- 高温、多湿の場所を避けて保管してください。
- 新しい乾電池と使った乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池を交換するときは、異物が入らないようにご注意ください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液漏れや破裂を避けるために乾電池を取り出してください。

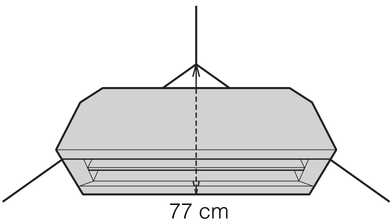
本機を設置する

設置場所について

本機を設置するときは、放熱を妨げないように壁から5 cm以上離して設置してください。



本機は部屋のコーナーに設置しやすいように、後部を斜めに仕上げてあります。部屋のコーナーに設置する場合、コーナーから本機前面まで約77 cmの距離が必要です。



ご注意

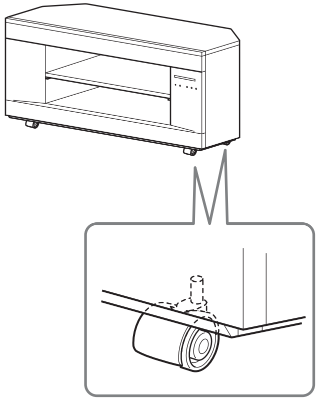
- 設置の際に、手をはさまないよう気をつけてください。

本機のキャスターを固定する

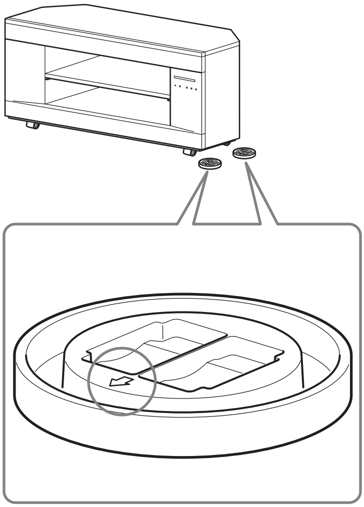
キャスタートレイ（付属）をキャスターの下に設置して、本機を固定します。片側2個ずつ一緒に設置します。必ず2人以上で設置してください。

1 本機を設置場所に置く。

2 片側2個のキャスターを回転させ、本機正面に対して図のような向きにする。

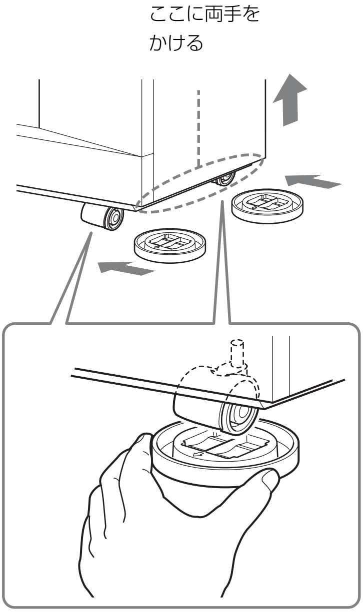


3 キャスターの横にキャスタートレイを置き、キャスタートレイの矢印を本機正面に向ける。



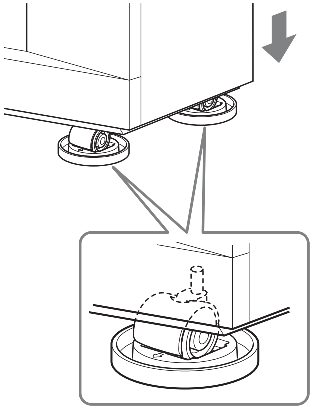
4 1人が本機を持ち上げ、もう1人がキャスタートレイをそれぞれのキャスターの下に移動する。

本機を持ち上げるときは、側面の下に両手をかけてください。キャスタートレイの矢印は本機正面に向けたまま移動してください。



5 本機を降ろし、キャスターをキャスタートレイにはめる。

キャスターがキャスタートレイに正しくはまっているかどうかを確認します。



6 手順2から5を繰り返して、反対側の2個のキャスタートレイを設置する。

7 本機を前後左右に揺すり、キャスターが固定されているかどうか確認する。

ご注意

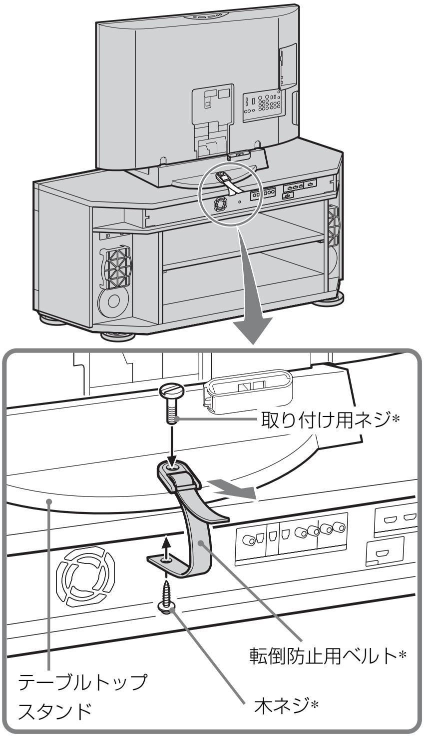
- キャスタートレイを設置するときは、キャスターとキャスタートレイの間に手をはさまないよう気をつけてください。

接続と準備

次のページへつづく

テレビに転倒防止の措置をする

テレビが転倒することを防ぐため、必ず転倒防止の措置をしてください。ソニー製液晶テレビをお持ちの方は、下記の手順で転倒防止の措置をしてください。



* 転倒防止用ベルト、木ネジ、取り付け用ネジはソニー製液晶テレビに付属されています。
イラストは一例です。それぞれの形状は、お使いのテレビによって異なります。

1 本機の天板にテレビを載せる。

天板の左右の中心にテレビを載せてください。テレビのテーブルトップスタンドの後端を、天板の後端に合わせてください。

2 転倒防止用ベルト*を木ネジ*で固定する。

木ネジは下穴に合わせ、上向きに締めます。

3 転倒防止用ベルト*をテーブルトップスタンドにはめ込んで、コインやドライバーなどを使って取り付け用ネジ*でしっかり留める。

4 テレビを固定し、転倒防止用ベルトをしっかりと締める。

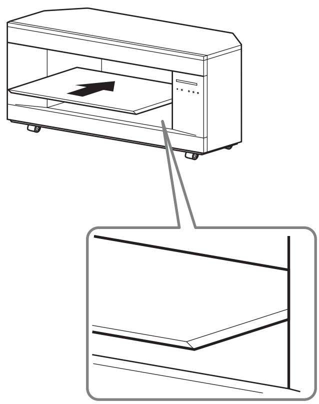
棚板を取り付ける

1 棚板取り付け用ピン（付属）を側板の穴にまっすぐ差し込む（4箇所）。

棚板の取り付け位置は3段階の調整が可能です。

2 棚板の溝（4箇所）がピンに合うよう、水平に置く。

天板の斜めにカットしてあるほうが手前にくるようにしてください。



ご注意

- 設置の際に、手をはさまないよう気をつけてください。

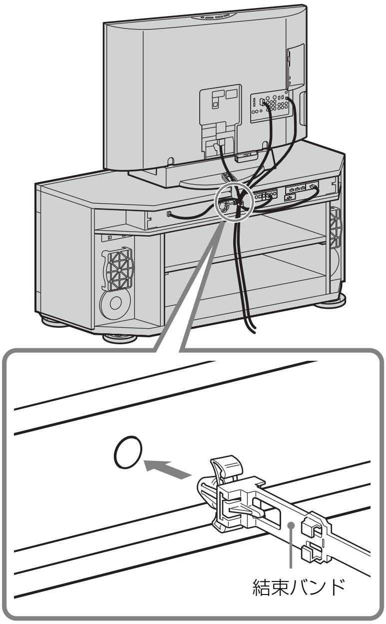
ケーブルをまとめる

結束バンド（付属）を使って、本機と接続機器のケーブル類をまとめることができます。

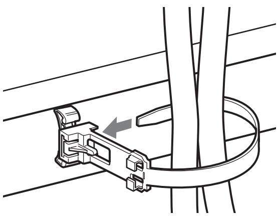
1 本機に他機器を接続する。

他機器接続の詳細は16～20ページをご覧ください。

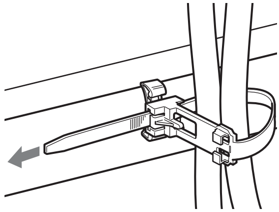
2 結束バンド（付属）を本機背面の穴に、カチッと音がするまで差し込む。



3 ケーブルをたばねて、結束バンドの先端を結束バンドの穴に差し込む。

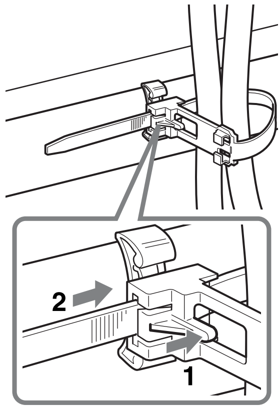


4 結束バンドの先端を引き、長さを調節する。



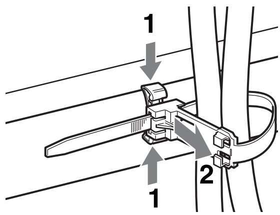
結束バンドの結束をはずす

1 結束バンドのレバーを押す。
2 レバーを押したまま、結束バンドの先端を引き抜く。



結束バンドを本機背面からはずす

1 結束バンドの両側のタブをつまむ。
2 タブをつまんだまま、結束バンドを本機背面から引き抜く。



HDMI端子がある機器を接続する

HDMIケーブルを使って、他機器と接続することをおすすめします。HDMIを使えば、簡単に高音質、高画質を楽しむことができます。

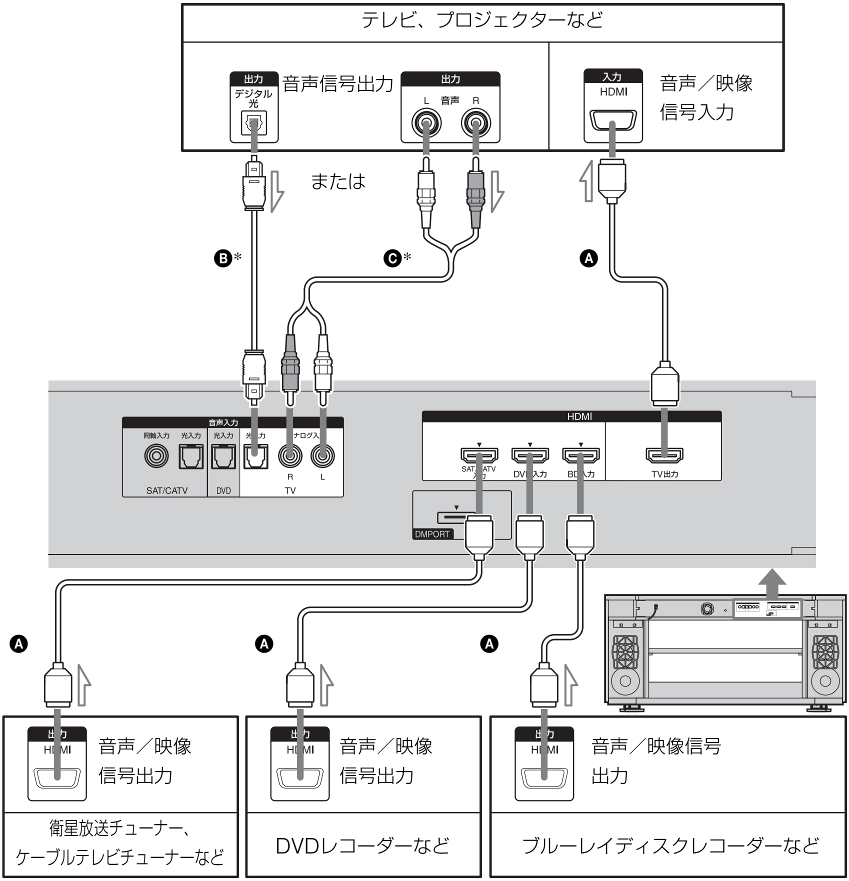
HDMIケーブルを接続しただけでは、テレビの音声を本機で聞くことができません。

テレビの音声を本機で聞くには、テレビの音声出力と本機の音声入力を、光デジタルコード（またはアナログ音声コード）で接続してください。

“ブラビアリンク”に対応した機器をHDMIケーブルで接続すると、便利な「“ブラビアリンク”機能」が使えます（30ページ）。

本機のHDMI入力端子はどれも同様にお使いいただけます。“プレイステーション 3”などは、空いている端子につないでください。

すべての機器を接続してから、電源につないでください。



：信号の流れ

Ⓐ HDMIケーブル（別売）　Ⓑ 光デジタルコード（付属）
Ⓒ アナログ音声コード（別売）

＊ ⒷとⒸの両方をつなぐ必要はありません。お使いの機器に合ったコードをつないでください。

ちょっと一言

- 本機のHDMI機器制御機能がオン（入）に設定されている場合には、本機の電源がオフ（スタンバイ）のときでも、テレビにHDMI信号が伝送されて、接続機器の映像と音声をテレビで楽しむことができます。

ご注意

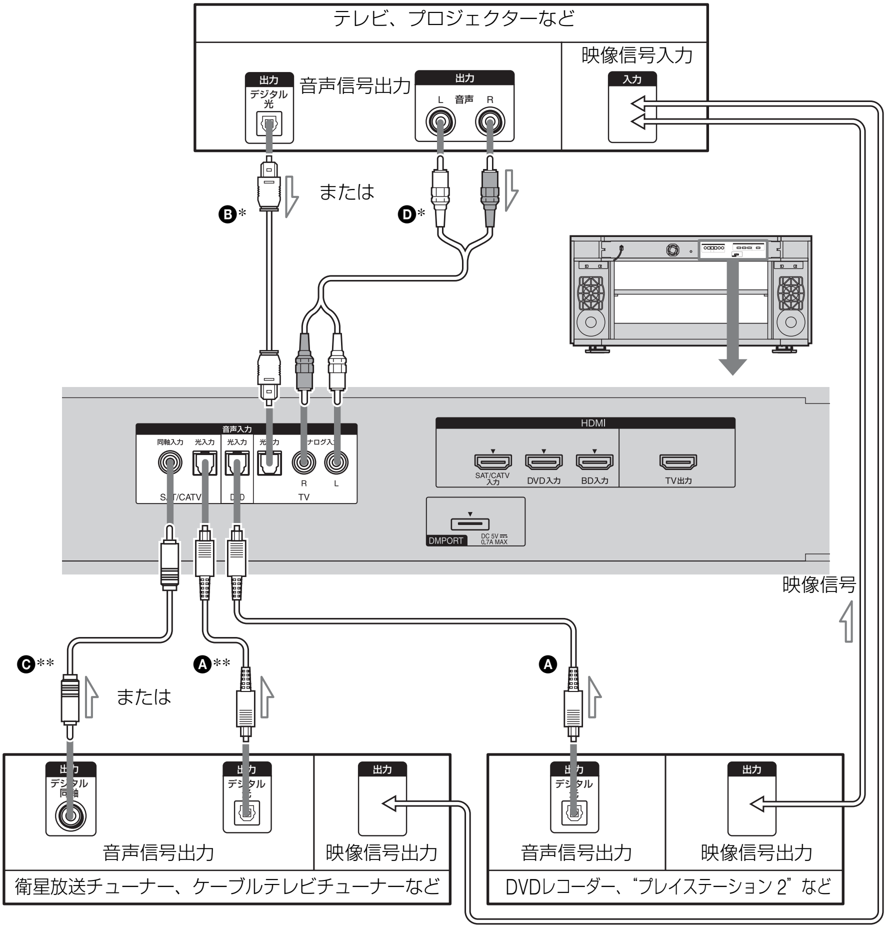
- 機器を同軸入力端子、光入力端子、アナログ（音声）入力端子、HDMI端子に同時に接続した場合、HDMI端子からの信号が優先されます。
- 本機とテレビを光入力端子とアナログ（音声）入力端子に同時に接続した場合は、光入力端子からの音声信号が優先されます。

HDMI端子の接続について

- High Speed HDMI Cableをご利用下さい。
  Standard HDMI Cableの場合、1080pの映像が正しく表示できない場合があります。
- 認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルをおすすめします。
- HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音が出ないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。
- 接続機器からの音声出力信号のチャンネル数やサンプリング周波数が切り換えられた場合、音声が途切れることがあります。
- 接続機器が著作権保護技術に対応していないために、本機のHDMI TV出力端子の映像や音声が乱れたり再生できない場合があります。このような場合は、接続機器の仕様をご確認ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。
- 本機の入力が「TV」または「DMPORT」のときは、HDMI TV出力端子からは前回選択されたHDMI入力（SAT/CATV、DVDまたはBD）の映像が出力されます。

HDMI端子がない機器を接続する

DVDレコーダー（プレーヤー）、衛星放送チューナー、"プレイステーション 2"など、HDMI端子のない機器を接続する場合、映像信号出力端子は直接テレビにつないでください。音声信号出力端子は、光入力端子または同軸入力端子で本機とつないでください。
HDMI端子のない機器を接続する場合は、本機のアンプメニューでHDMI機器制御機能をオフ（切）に設定してください（32ページ）。
ただし、VHSデッキなど、サラウンド音声を出力しない映像機器の場合は、映像／音声出力端子を本機につながず、テレビにつなぐと、HDMI機器制御機能をオン（入）にしたままでお使いいただけます。



A 光デジタルコード（別売）　B 光デジタルコード（付属）
C 同軸デジタルコード（別売）　D アナログ音声コード（別売）

⇨ ：信号の流れ

* BとDの両方をつなぐ必要はありません。お使いの機器に合ったコードをつないでください。
** AとCの両方をつなぐ必要はありません。お使いの機器に合ったコードをつないでください。

ご注意

- 本機とテレビを光入力端子とアナログ（音声）入力端子に同時に接続した場合は、光入力端子からの音声信号が優先されます。

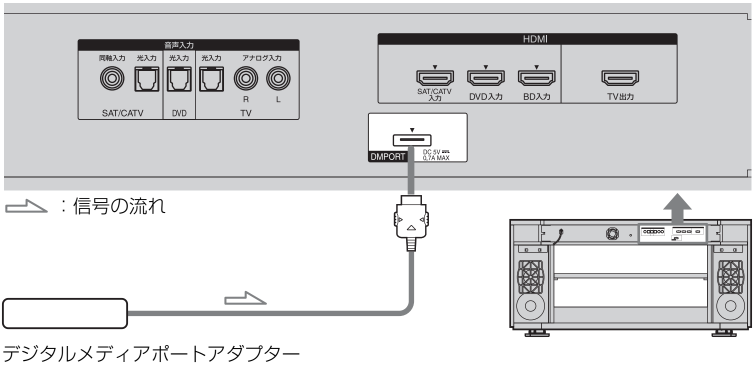
接続機器の音声出力を設定する

接続機器の音声出力設定によっては、2チャンネルの音声フォーマットとしてのみ、音声が出力されることがあります。この場合、マルチチャンネルの音声フォーマット（PCM、DTS、Dolby Digital）で音声を出力するように、接続機器を設定してください。音声出力の設定については、接続機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

デジタルメディアポートアダプターを接続する

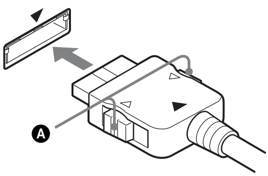
デジタルメディアポート端子（DMPORT端子）に接続した機器の音声を本機で楽しむことができます。

すべての接続を終えたあと、電源コードをつなぎます。



ご注意

- 本機の電源が入っているときは、デジタルメディアポートアダプターを抜き差ししないでください。
- デジタルメディアポートアダプターを差し込むときは、コネクターとデジタルメディアポート端子（DMPORT端子）の矢印が向かい合っていることを確認してください。デジタルメディアポートアダプターを取りはずすときは、Ⓐを押しながらコネクターを抜いてください。



電源コードをつなぐ

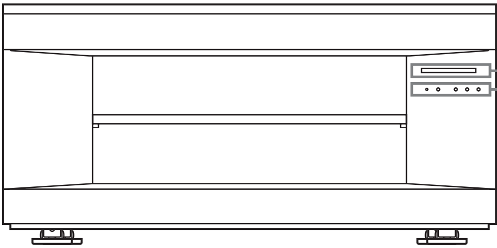
他の機器やテレビをつないでから、本機の電源コードを壁のコンセントにつないでください。

ご注意

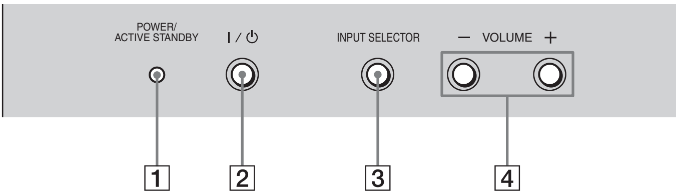
- 本機は、コンセントの近くでお使い下さい。ご使用中不具合が生じた時は、すぐにコンセントから電源プラグを抜き、電源を遮断して下さい。

各部の名前と働き

詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。



操作部



1 POWER/ACTIVE STANDBY（パワー/アクティブスタンバイ）

以下のように点灯します。
緑：電源が入っているとき。
オレンジ：電源が切れており、HDMI機器制御機能がオン（入）のとき。
消灯：電源が切れており、HDMI機器制御機能がオフ（切）のとき。

2 **I/⏻（電源）ボタン**

本機の電源を入／切します。

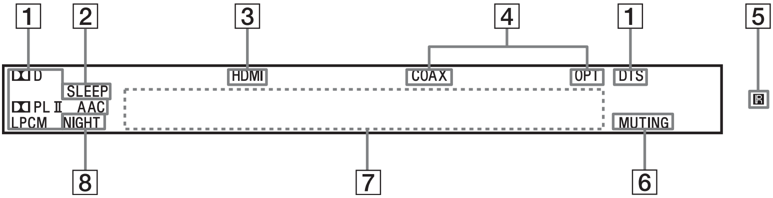
3 INPUT SELECTOR（インプットセレクター）**（入力切換）ボタン**

再生する入力ソースを選びます。
押すたびに次のように切り替わります。
TV → BD → DVD → SAT/CATV → DMPORT → TV .....

4 VOLUME（ボリューム）**（音量）＋／－ボタン**

本機の音量を調節します。

表示窓



1 **音声フォーマット表示**

現在デコードしている音声フォーマットが点灯します。

D：ドルビーデジタル

PLII：ドルビープロロジックII

AAC：Advanced Audio Coding

LPCM：リニアPCM

DTS

2 SLEEP（40）

スリープタイマーを設定したときに点滅します。

3 HDMI（16、43）

HDMI対応機器を使っているときに点灯します。

4 COAX/OPT

COAX（同軸入力）、OPT（光入力）のうち、現在使われている音声入力が点灯します。

5 **リモコン受光部**

リモコンをここに向けて操作してください。

6 MUTING

消音機能が有効になっているときに点灯します。

7 **メッセージ表示領域**

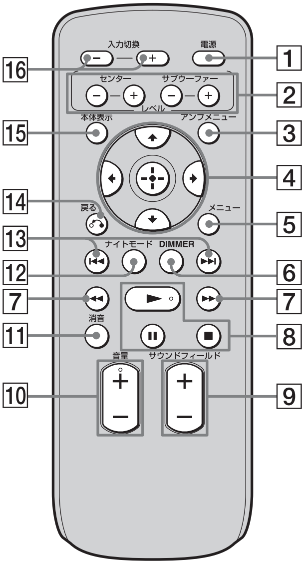
音量や選ばれている外部入力、入力された音声信号の種類などを表示します。

8 NIGHT（29）

ナイトモードのときに点灯します。

次のページへつづく

リモコン



本機の操作に使うボタン

1 **電源ボタン**

本機の電源を入／切します。

2 **レベル**

センタースピーカーとサブウーファーの音量を調節します。ここでの設定が、すべてのサウンドフィールドに反映されます。

3 **アンプメニューボタン**

本機のメニューを表示します（37ページ）。

4 **←/↑/↓/→、⊕**

←、↑、↓、→で設定を選び、⊕で決定します。

6 **DIMMERボタン**

表示窓の明るさを2段階で調節します。

9 **サウンドフィールド＋／－ボタン**

お好みのサウンドフィールドを選びます（27ページ）。

10 **音量＋／－ボタン**

音量の調節をします。

11 **消音ボタン**

消音します。

12 **ナイトモードボタン**

ナイトモードのオン（入）／オフ（切）を切り換えます（29ページ）。

14 **↶ 戻るボタン**

直前のメニューに戻ります。

15 **本体表示ボタン**

「DISPLAY」を「OFF」に設定しているときに（40ページ）、本機の状態を数秒間表示します。

16 **入力切換＋／－ボタン**

接続機器の入力を切り換えます。
押すたびに次のように切り替わります。
TV ↔ BD ↔ DVD ↔ SAT/CATV ↔ DMPORT ↔ TV .....

デジタルメディアポート端子（DMPORT端子）に接続した機器の操作に使うボタン

下記の説明は基本的な操作の一例です。つないだ機器によっては操作できないか、または下記の記載とは異なった動作をする場合があります。

4 **←/↑/↓/→、⊕**

設定したいメニューや項目を選び、決定します。

5 **メニューボタン**

メニューを表示します。

7 **◀◀/▶▶**

早戻し／早送りをします。

8 **▶（再生）／❚❚（一時停止）／■（停止）**

再生を開始／一時停止／停止します。

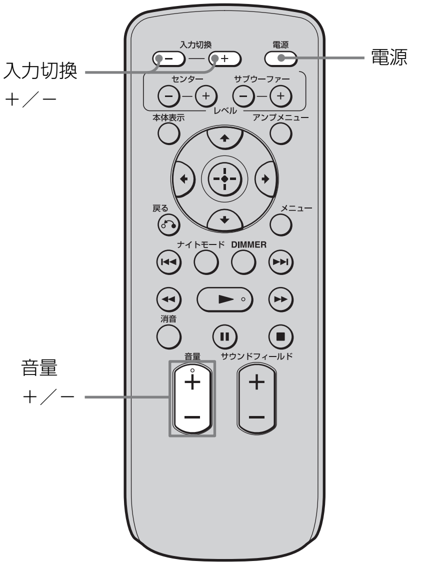
13 **⏮/⏭**

チャプターをスキップします。

14 **↶ 戻るボタン**

直前のメニューに戻ります。

テレビの音声を聞く



1 テレビの電源を入れて、番組を選ぶ。
詳しくはテレビに付属の説明書をご覧ください。

2 本機の電源を入れる。

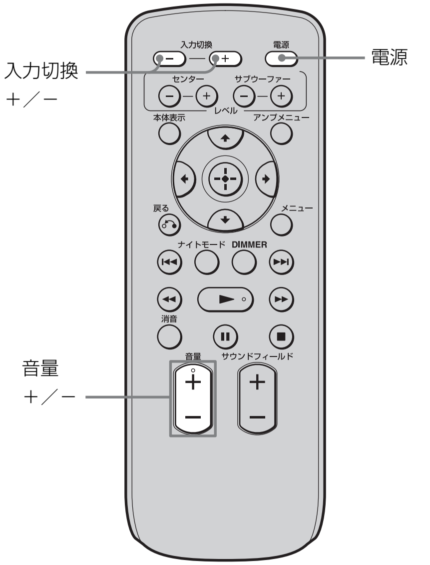
3 入力切換＋／－ボタンを繰り返し押して、本機の表示窓に「TV」を表示させる。

4 音量＋／－ボタンで本機の音量を調節する。

ちょっと一言

- テレビのスピーカーからも音が出ていることがあります。その場合は、テレビの音量を最小にしてください。

つないだ機器の音声を聞く



衛星放送チューナー／ケーブルテレビチューナーの音声を楽しむ

1 テレビの電源を入れる。
詳しくはテレビに付属の説明書をご覧ください。

2 衛星放送チューナー／ケーブルテレビチューナーと本機の電源を入れる。

3 入力切換＋／－ボタンを繰り返し押して、本機の表示窓に「SAT/CATV」を表示させる。

4 テレビの入力を切り換える。
詳しくはテレビに付属の説明書をご覧ください。

次のページへつづく

5 音量＋／－ボタンで本機の音量を調節する。

ちょっと一言

- テレビのスピーカーからも音が出ていることがあります。その場合は、テレビの音量を最小にしてください。

ブルーレイディスク／DVDレコーダー、“プレイステーション 2”または“プレイステーション 3”でディスクを再生する

1 テレビの電源を入れる。

2 ブルーレイディスク／DVDレコーダー、“プレイステーション 2”または“プレイステーション 3”と本機の電源を入れる。

3 入力切換＋／－ボタンを繰り返し押して、本機の表示窓に「BD」または「DVD」を表示させる。

4 テレビの入力を切り換える。

詳しくはテレビに付属の説明書をご覧ください。

5 ディスクを再生する。

ちょっと一言

- Dolby True HD、Dolby Digital Plus、DTS-HDに対応した接続機器で、これらの音源を再生した場合、本機ではドルビーデジタルまたはDTSとして処理されます。Dolby True HDなどの高品質サウンドフォーマットをお聞きの際は、可能であれば接続機器の出力設定をマルチチャンネルPCMにしてください。

デジタルメディアポート端子（DMPORT端子）に接続した機器を再生する

1 入力切換＋／－ボタンを繰り返し押して、本機の表示窓に「DMPORT」を表示させる。

2 接続機器を再生する。

ちょっと一言

- 「STANDARD」以外のサウンドフィールドでポータブルオーディオプレーヤーの音楽を聞くと、Portable Audio Enhancer（ポータブルオーディオエンハンサー）の効果で、最適な音質をお楽しみいただけます。

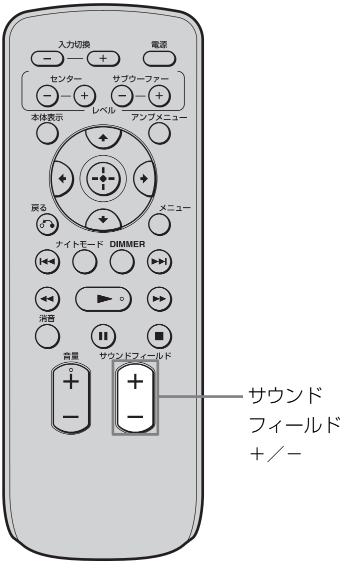
ご注意

- デジタルメディアポート端子の映像出力端子を、テレビの映像入力端子に接続している場合、本機のHDMI機器制御機能をオフ（切）にしてください（32ページ）。HDMI機器制御機能がオン（入）のままでは、デジタルメディアポート端子に接続した機器の映像を見ることができません。
- HDMI機器制御機能をオン（入）にしている場合、映像を表示せずに音声だけを楽しむには、テレビの電源を切ったあとに、本機の電源を入れなおしてください。
  本機の電源を入れたあとにテレビの電源を切ると、HDMI機器制御機能が働き、テレビに接続された機器すべての電源が切れてしまいます。

サラウンド効果を楽しむ

サウンドフィールドを選ぶ

本機ではマルチチャンネルサラウンド効果を楽しむことができます。お好みのサウンドフィールドを選んでください。



サウンドフィールド＋／－ボタンを押す。

本機の表示窓に現在のサウンドフィールドが表示されます。



サウンドフィールド＋／－ボタンを押すたびに、表示が次のように切り替わります。
STANDARD ←→ MOVIE ←→ DRAMA ←→ NEWS ←→ SPORTS ←→ GAME ←→ MUSIC ←→ JAZZ ←→ CLASSIC ←→ ROCK ←→ POP ←→ LIVE ←→ FLAT ←→ STANDARD .....

次のページへつづく

サウンドフィールドの種類

適したソース	サウンドフィールド	効果
すべてのソース	STANDARD	どんなソースにも幅広く対応します。
映像ソース	MOVIE*	セリフが聞き取りやすく、迫力のあるサウンドと臨場感が楽しめます。
	DRAMA*	テレビドラマに最適な音質で楽しめます。
	NEWS*	アナウンサーの声が聞き取りやすい、クリアな音声です。
	SPORTS*	解説が聞き取りやすく、歓声などがサラウンドで聞こえ、臨場感が楽しめます。
	GAME*	ゲームに最適な迫力あるサウンドと臨場感が楽しめます。
	MUSIC*	音楽番組や音楽系のブルーレイディスク、DVDに最適な音質で楽しめます。
音楽ソース	JAZZ	ジャズクラブの雰囲気を楽しめます。
	CLASSIC	クラシックコンサートの雰囲気を楽しめます。
	ROCK	ロックミュージックに最適な迫力あるサウンドを楽しめます。
	POP	ポップミュージックに最適な軽快なサウンドを楽しめます。
	LIVE	ライブ会場の雰囲気を楽しめます。
	FLAT	音声にエフェクトをかけずに、ステレオ再生します。

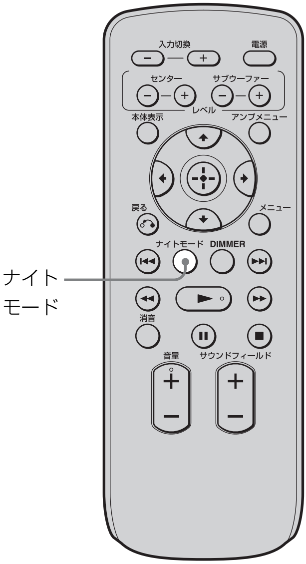
* 入力切換ボタンで「DMPORT」を選択しているときは、表示されません。

ちょっと一言

- サウンドフィールドは入力ごとに設定できます。
- サウンドフィールドのお買い上げ時の設定は、入力が「DMPORT」のときは「FLAT」、その他の入力のときは「STANDARD」です。
- 入力切換ボタンで「DMPORT」を選択しているときは、センタースピーカーから音が出ません。
- モノラル放送時など、入力信号によっては、音の出ないスピーカーがあります。
- 音楽ソース用サウンドフィールドを選んだ場合は、センタースピーカーからは音が出ません。
- アンプメニューで「CTRL: HDMI」が「ON」に設定され、かつ「SOUND.FIELD」が「AUTO」に設定されているときは、視聴中のテレビ番組のジャンルに応じて、サウンドフィールドが自動的に切り替わります（34ページ）。
- 「CTRL: HDMI」が「ON」のときに、ソニー製テレビのリモコンのシアターボタンを押すと、サウンドフィールドが「MOVIE」に切り替わります（一部のソニー製テレビをのぞく）。

小さい音量で楽しむ（ナイトモード）

小さい音量でも音響効果やセリフの明瞭さを失わずに音声を楽しめます。



ナイトモードボタンを押す。

ナイトモードボタンをもう一度押すとオフ（切）になります。

ちょっと一言

- AUDIO DRC（39ページ）を使うと、小さな音量でもドルビーデジタルを楽しめます。

“ブラビアリンク”とは？

HDMI機器制御機能（“ブラビアリンク”）に対応しているソニー製品をHDMIケーブル（別売）でつなぐと、下記のように操作を簡単に行うことができます。

- ワンタッチプレイ：ブルーレイディスクレコーダーなどの機器を再生すると、テレビの電源が自動的に入り、HDMI入力に切り替わります。
- システムオーディオコントロール：テレビの視聴中、音声の出力をテレビのスピーカーで行うか、本機のスピーカーで行うかを選ぶことができます。
- 電源オフ連動：テレビの電源を切ると、本機と接続機器の電源も同時に切ることができます。
- オートジャンルセレクター：デジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り替わります。

“ブラビアリンク”は、HDMI機器制御を搭載したソニーのテレビやブルーレイディスクレコーダー、AVアンプなどが対応しています。

HDMI機器制御は、CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。

次の場合、HDMI機器制御機能は正しく働きません。

- HDMI機器制御機能（“ブラビアリンク”）に対応していない機器をつないだとき
- 本機と各機器をHDMIケーブル以外でつないだとき
- SONY製品以外のHDMI機器制御対応機器に接続したとき

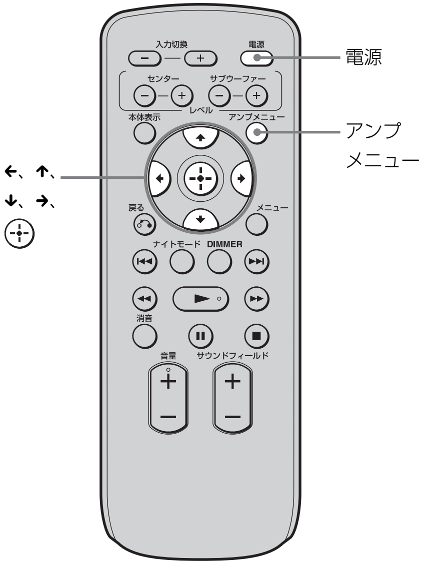
本機には、“ブラビアリンク”に対応した機器を接続することをおすすめします。

ご注意

- 接続機器の設定によっては、HDMI機器制御機能が働かないことがあります。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

“ブラビアリンク”を使う準備をする

“ブラビアリンク”を使うには、接続機器のHDMI機器制御機能をオン（入）に設定してください。HDMI機器制御機能に対応しているソニー製テレビをお使いの場合、テレビのHDMI機器制御機能の設定を行うと、本機や接続機器のHDMI機器制御機能も連動して設定されます。



1 本機とテレビ、接続機器がHDMIケーブル（別売）でつながれていることを確認する。

ご注意
- テレビや接続機器はHDMI機器制御機能（“ブラビアリンク”）に対応している必要があります。

2 本機とテレビ、接続機器の電源を入れる。

3 接続機器の映像がテレビに映るように、テレビのHDMI入力と本機の入力（SAT/CATV、DVDまたはBD）を切り換える。

4 テレビのメニュー画面にHDMI機器一覧を表示し、接続した機器のHDMI制御を有効にする。

本機と接続機器側のHDMI機器制御機能が自動的にオン（入）に設定されます。

設定中は、「SCANNING」が表示窓に表示されます。設定が完了すると、表示窓に「COMPLETE」が表示されます。

ご注意
- テレビや接続機器の設定については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

「SCANNING」、「COMPLETE」が表示されないときは

本機と接続機器のHDMI機器制御を個別にオン（入）に設定してください。

1 アンプメニューボタンを押す。
2 ↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。
3 ↑/↓を繰り返し押して「CTRL: HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。
4 ↑/↓を押して、「ON」を選ぶ。
5 アンプメニューボタンを押す。
アンプメニュー画面表示が消え、HDMI機器制御機能がオン（入）になります。
6 接続機器のHDMI機器制御をオン（入）にする。
接続機器の設定については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
7 HDMI機器制御機能を使用したい機器の入力（SAT/CATV、DVDまたはBD）を本機で選択し、手順6を繰り返す。

次のページへつづく

本機に接続機器を追加したり、再接続するときは

「"ブラビアリンク"を使う準備をする」や「「SCANNING」、「COMPLETE」が表示されないときは」の手順をもう一度行ってください。

ご注意

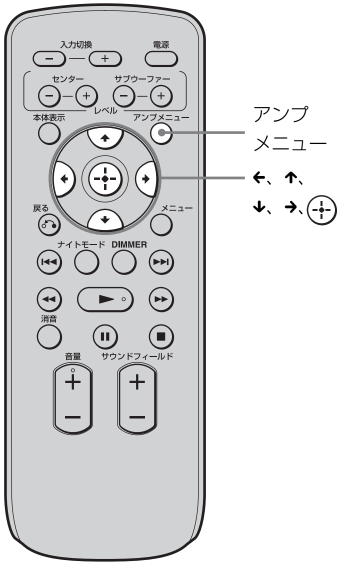
- 本機のHDMI機器制御機能の設定中は、システムオーディオコントロール機能は働きません。
- テレビの「HDMI機器制御」によって、接続機器のHDMI機器制御を同時に設定できない場合は、接続機器のメニューからHDMI機器制御機能を設定してください。
- テレビや接続機器の設定については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

- 本機のHDMI機器制御機能は、工場出荷時にオン（入）に設定されています。

HDMI機器制御機能をオフ（切）にする

"ブラビアリンク"に対応していない機器や、HDMI端子のない機器を接続しているときなどは、本機のアンプメニューでHDMI機器制御機能をオフ（切）に設定してください。



1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を押して、「CTRL: HDMI」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、「OFF」を選ぶ。

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

ブルーレイディスクを楽しむ

（ワンタッチプレイ）

接続機器を再生する。

テレビの電源が自動的に入り、HDMI入力に切り替わります。

ちょっと一言

- 本機の電源がオフ（スタンバイ）のときでも、テレビにHDMI信号が伝送されて、接続機器の映像と音声をテレビで楽しむことができます。

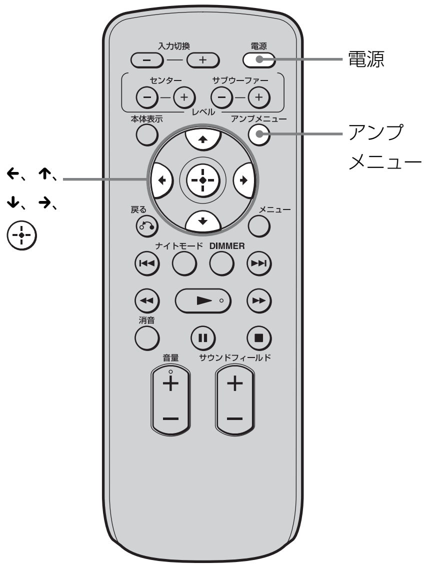
ご注意

- テレビによっては、コンテンツの開始部分が出力されないことがあります。

テレビの音声を本機のスピーカーで楽しむ

（システムオーディオコントロール）

テレビのリモコンによる簡単な操作でテレビの音声を本機のスピーカーから楽しむことができます。
詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。



本機の電源を入れる。

本機のスピーカーから音が出ます。本機の電源を切ると、自動的にテレビのスピーカーから音が出ます。

ご注意

- 本機の電源を入れてから音声が出力されるまでに、時間がかかることがあります。

次のページへつづく

- システムオーディオコントロールに対応していないテレビを接続しても、システムオーディオコントロールは機能しません。

ちょっと一言

- テレビのリモコンで本機の音量調整と消音ができます。

デジタル放送のジャンルに応じて、サラウンド効果を自動的に切り換える（オートジャンルセレクター）

視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます（オートジャンルセレクター対応のテレビをお使いの場合のみ）。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して「SOUND.FIELD」を表示させ、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、設定を選ぶ。

- 「AUTO」：デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じてサウンドフィールドが自動的に切り替わります。
- 「MANUAL」：サウンドフィールド＋／－ボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

番組情報対応表

番組情報（EPG情報）	オートジャンルセレクターで切り替わるサウンドフィールド
ニュース／報道	NEWS
スポーツ	SPORTS
情報／ワイドショー	STANDARD
ドラマ	DRAMA
音楽	MUSIC
バラエティ	STANDARD
映画	MOVIE
アニメ／特撮	STANDARD
ドキュメンタリー	STANDARD
劇場／公演	MUSIC
趣味／教育	NEWS
福祉	NEWS
その他	STANDARD
スポーツ（CS）	SPORTS
洋画（CS）	MOVIE
邦画（CS）	MOVIE
情報なし	STANDARD

ご注意

- 番組情報（EPG情報）に応じてサウンドフィールドが切り替わるとき、音が途切れることがあります。

音量制限機能を使う

システムオーディオコントロールが作動中に、音声出力がテレビから本機に切り替わると、本機の音量によっては大きな音が出ることがあります。こうしたことを防ぐために、本機に切り換えた後の音量を制限することができます。

1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。**

3 **↑/↓を繰り返し押して「VOL LIMIT」を表示させ、⊕または→を押す。**

4 **↑/↓を押して設定値を決める。**
ボタンを押すごとに、設定値が切り替わります。

MAX ↔ 49 ↔ 48 ..... 2 ↔ 1 ↔ MIN

5 **アンプメニューボタンを押す。**
アンプメニュー画面表示が消えます。

ご注意

- この機能は、音声出力が本機からテレビに切り替わるときには働きません。

ちょっと一言

- 設定値は、通常お聞きの音量より少し小さくすることをおすすめします。
- 設定値の大きさにかかわらず、本機とリモコンの音量＋／－ボタンを使って音量を調整できます。
- この機能を使用しない場合は、「MAX」を選択してください。

テレビと本機、接続機器の電源を切る

（電源オフ連動）

テレビのリモコンでテレビの電源を切ると、本機と接続機器の電源も連動して切ることができます。

ちょっと一言

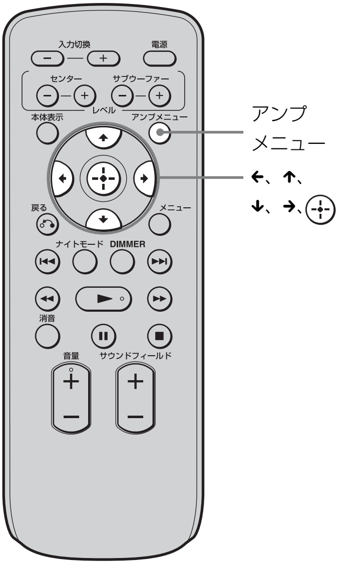
- 省電力機能がオン（入）のときは、テレビの電源をオフ（スタンバイ）にすると、本機のスタンバイ時の消費電力が削減されます。

ご注意

- 本機や接続機器の状態によっては、接続機器の電源を切れない場合があります。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

省電力機能を使う

“ブラビアリンク”に対応したテレビをお使いのときは、テレビの電源を切ると、HDMI信号の伝送を停止して、本機のスタンバイ時の消費電力を削減することができます。



1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、「POWER SAVE」を表示させ、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、設定を選ぶ。

- 「ON」：スタンバイ時の省電力機能を使う。テレビの電源がオン（入）のときのみ、HDMI信号の伝送を行います。
- 「OFF」：スタンバイ時の省電力機能を使わない。本機の電源がオフ（スタンバイ）のときでも、常にHDMI信号の伝送を行います。

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

ご注意

- お使いの機器によっては、映像や音声の出力に少し時間がかかることがあります。

アンプメニューの設定をする

アンプメニューを使う

リモコンのアンプメニューボタンを押すと、下記の設定ができます。
お買い上げ時の設定は下線の項目です。

AMP MENU

- SET HDMI*
  - CTRL: HDMI
    - ON
    - OFF
  - SOUND. FIELD**
    - AUTO
    - MANUAL
  - VOL LIMIT**
    - MAX、49、48、.....2、1、MIN
  - POWER SAVE**
    - ON
    - OFF
- DUAL MONO
  - MAIN
  - SUB
  - MAIN / SUB
- A/V SYNC
  - ON
  - OFF
- AUDIO DRC
  - MAX
  - STD
  - OFF
- DISPLAY
  - ON
  - OFF
- SLEEP
  - OFF、10M、20M、.....80M、90M

* 詳しくは「"ブラビアリンク"機能」（30ページ）をご覧ください。
**これらの設定は「CTRL: HDMI」が「ON」のときだけ表示されます。

1 アンプメニューボタンを押して、アンプメニュー画面を表示させる。

2 ←/↑/↓/→を繰り返し押して、設定したい項目を選ぶ。

3 アンプメニューボタンを押して、アンプメニュー画面の表示を消す。

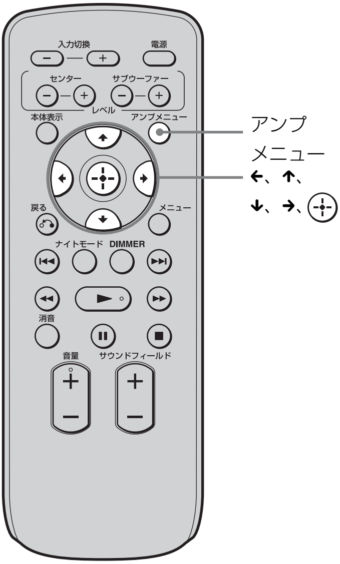
ちょっと一言
- 電源コードを抜いても、設定は保持されます。

これからのページはアンプメニューの各設定について説明します。

AAC（2ヶ国語放送）を楽しむ（DUAL MONO）

AACとは、BSデジタル放送や地上波デジタル放送で採用されている音声方式です。
AACでは5.1 chのサラウンド放送や2ヶ国語放送にも対応しています。
BSデジタル放送などのAAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力設定」などで設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からAAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご確認ください。
以上の準備が整った上で、次の操作を行ってください。

次のページへつづく



1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **↑/↓を繰り返し押して「DUAL MONO」を表示させ、⊕または→を押す。**

3 **↑/↓を押して、設定を選ぶ。**

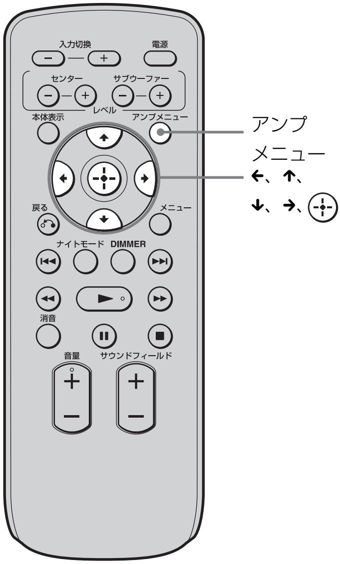
- 「MAIN」（主音声）：主音声のみを再生します。
- 「SUB」（副音声）：副音声のみを再生します。
- 「MAIN/SUB」（主／副）：左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。

4 **アンプメニューボタンを押す。**

アンプメニュー画面表示が消えます。

映像の遅れに音声を合わせる（A/V SYNC）

映像が音声よりも遅れている場合、この機能で音声を遅らせることができます。



1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **↑/↓を繰り返し押して「A/V SYNC」を表示させ、⊕または→を押す。**

3 **↑/↓を押して、設定を選ぶ。**

- 「OFF」：A/V SYNC機能を使わない。
- 「ON」：A/V SYNC機能を使って、音声と映像のずれを調節する。

4 **アンプメニューボタンを押す。**

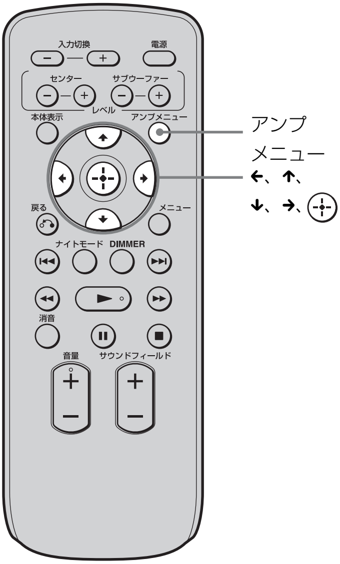
アンプメニュー画面表示が消えます。

ご注意

- この機能を使っても、完全に映像と合わせることができない場合があります。
- この機能は同軸入力、光入力およびHDMI入力のDolby Digital、DTS、MPEG2-AAC、リニアPCM（2ch）に働きます。

小さい音量でドルビーデジタルサウンドを楽しむ（AUDIO DRC）

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。小さな音量で映画を楽しむときに便利です。AUDIO DRCはドルビーデジタルの音声にのみ対応しています。



1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **↑/↓を繰り返し押して「AUDIO DRC」を表示させ、⊕または→を押す。**

3 **↑/↓を押して、設定を選ぶ。**

- 「OFF」：信号の幅は圧縮されません。
- 「STD」：制作者が意図したようなダイナミックレンジで音声を再現します。
- 「MAX」：信号の幅を最大限に圧縮します。

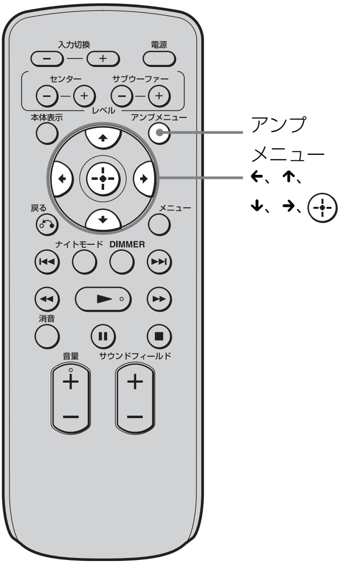
4 **アンプメニューボタンを押す。**

アンプメニュー画面表示が消えます。

次のページへつづく

表示窓の設定を変える（DISPLAY）

表示窓の設定を変更することができます。



1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して「DISPLAY」を表示させ、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を押して、表示窓の設定を選ぶ。

- 「ON」：常時、表示窓を点灯します。
- 「OFF」：本機を操作したときに、数秒間表示窓を点灯します。

ご注意

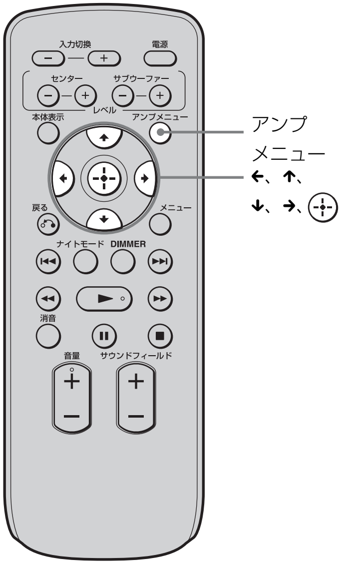
- 「DISPLAY」が「OFF」に設定されていても、消音機能が有効になっているときやPROTECT状態のときは、表示窓は常時点灯します。

4 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

スリープタイマーを使う

音楽などを聞きながらお休みになるとき、設定した時間に本機の電源を切ることができます。時間は10分間隔で設定することができます。



1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して「SLEEP」を表示させ、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を押して希望の設定時間を選ぶ。

ボタンを押すごとに、設定時間が切り替わります。

OFF ↔ 10M ↔ 20M
↕ ↕
90M ↔ 80M 30M

4 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

ご注意

- スリープタイマーは本機にだけ適用されます。本機に接続しているテレビや他の機器には使えません。

その他

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

全般

電源が入らない

→ 電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。

本機の表示窓に「PROTECTOR」と「PUSH POWER」が交互に表示される

I/⏻（電源）ボタンを押して電源を切り、「STANDBY」が消えたら以下の項目を確認する。

→ 本機の通気孔がふさがっていないか点検する。

Dolby DigitalやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない

→ ブルーレイディスクやDVDなどを再生しているときは、Dolby DigitalやDTSフォーマットの音声を選んでいるか確認する。

→ ブルーレイディスクレコーダー／DVDプレーヤーなど、本機に接続されている機器のオーディオ設定を確認する。

サラウンド効果が得られない

→ サウンドフィールドの設定と入力信号によっては、サラウンド処理（27ページ）が働かないことがあります。入力信号を確認するには、入力切換ボタンを押し、もう一度入力を選び直します。入力を切り換えると、入力されている信号の種類が表示窓に表示されます。「2.0ch」や「1.0ch」と表示された場合は、ステレオまたはモノラル音声のため、サラウンド成分は含まれておりません。
「5.1ch」などと表示された場合はサラウンド音声ですが、番組やディスクによってはサラウンド成分が少ないことがあります。

スピーカーから音が出ない、または音が小さい

→ 音量＋ボタンを押し、音量を確認する。

→ 消音ボタンや音量＋ボタンを押して、消音機能を解除する。

→ サウンドフィールド＋／－ボタンを押して、現在のサウンドフィールドを確認する。

→ 音源によってはスピーカーの音響効果が、はっきりと目立たない場合があります。

テレビの音声が映像より遅れる

→「A/V SYNC」がオンに設定されていたら、「A/V SYNC」をオフに設定する。

接続機器

どの接続機器を選んでも音が出ない、または音が小さい

→ 本機とそれぞれの機器が正しく接続されているか確認する。

→ 本機と接続機器の電源がオンになっているか確認する。

→ 音量が最小になっていないか確認する。

→ 消音機能を解除するために消音ボタンを押す。

選択した機器から音が出ない

→ 接続機器が、本機の入力端子に正しくつながれているか確認する。

→ 接続機器の端子と本機の端子が、奥までしっかり差し込まれているか確認する。

→ 接続機器が正しく選択されているか確認する。

音が途切れたり、ノイズが出る

→「本機で対応するデジタル入力フォーマット」を確認する（46ページ）。

テレビ画面に映像が出ない

- テレビと本機が正しく接続されているか確認する。
- 本機でテレビが正しく選択されているか確認する。
- テレビをビデオ入力などの該当する入力モードに設定する。
- HDMI接続を確認する。
- 接続機器の端子と本機の端子が、奥までしっかり差し込まれているか確認する。

HDMI機器制御

"ブラビアリンク"を使用中、次のような問題が発生した場合は、以下の方法をお試しください。

HDMI機器制御機能が働かない

- HDMI接続を確認する（16ページ）。
- アンプメニューで「CTRL: HDMI」が「ON」に設定されていることを確認する。
- 接続機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認する。
- 接続機器のHDMI機器制御設定を確認する。お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI接続を変更したときは、「"ブラビアリンク"を使う準備をする」（31ページ）の手順を再度行ってください。
- 本機の電源コードを抜き差ししたときは、15秒以上待ってから動作させる。
- HDMI機器制御機能に対応していない機器をテレビに接続し、その機器の入力をテレビで選択した場合、本機が正しく動作しないことがあります。

システムオーディオコントロール機能を使っているときに本機とテレビの両方から音が出ない

- 本機またはテレビの音量を確認する。
- 本機の入力が正しく選択されているかを確認する。
- 接続機器のHDMI出力が正しく設定されているかを確認する。

システムオーディオコントロール機能を使っているときに本機とテレビの両方から音が出る

- HDMI機器制御機能がオフ（切）のときや、選択した機器がHDMI機器制御機能に対応していないときは、本機またはテレビを消音する。

電源オフ連動機能が働かない

- テレビの電源を切ると接続機器の電源が自動的に切れるように、テレビの設定を変更してください。詳しくは、お使いのテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。

テレビの電源を切ると、本機の電源が切れる

- HDMI機器制御機能をオン（入）に設定したときは、電源オフ連動機能が働き、テレビの電源を切ると、本機の電源が切れます。

テレビに映像が出ない

- 本機のHDMI入力端子とHDMI出力端子を逆につないでいないか、確認する。

本機が電源スタンバイのとき、テレビに映像と音声が出ない

- 本機が電源スタンバイのときに、テレビへ出力される映像と音声は、本機の電源を切る前に最後に選ばれていたHDMI入力の信号です。視聴したい機器が、最後に選ばれていたHDMI入力と異なる場合は、機器の再生を開始して、ワンタッチプレイを実行するか、本機の電源を入れてHDMI入力を選び直してください。
- "ブラビアリンク"に対応していない機器を接続している場合は、アンプメニューの「POWER SAVE」が「OFF」に設定されているか確認する（36ページ）。

次のページへつづく

その他

リモコンが機能しない

→ 本機の🅁受光部に向けて操作する。
→ リモコンと本機との間に障害物を置かない。
→ 電池が古い場合は、すべての電池を新しいものに取り替える。
→ リモコンの正しいボタンを押しているか確認する。

音声の出力方法をテレビスピーカーから本機のスピーカーに変更したときに、音量が下がる

→ 音量制限機能が働いています。詳しくは「音量制限機能を使う」（35ページ）をご覧ください。

これらの処置をしても正常に動作しないときは—リセット

本機側のボタンを下記の手順で操作します。

1. I/⏻（電源）ボタンを押して電源を入れる。
2. 本機のINPUT SELECTOR、VOLUME −を押しながら、I/⏻（電源）ボタンを押す。
   表示窓に「COLD RESET」と表示され、アンプメニューやサウンドフィールドなどがお買い上げ時の状態に戻ります。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

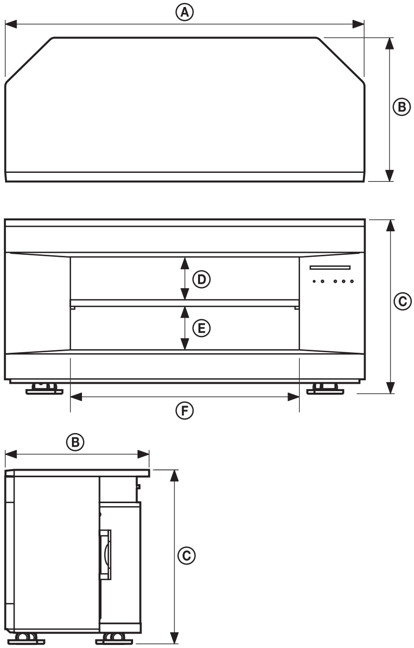
部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：RHT-G550
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様



外形寸法：mm	Ⓐ	1,000		
	Ⓑ	400		
	Ⓒ	480*		
可動棚 収納部内寸**： mm （奥行き：340mm）		①	②	③
	Ⓓ	100	118	136
	Ⓔ	138	120	102
	Ⓕ	640		
質量：kg		38		

* キャスタートレイを含みます。

** ①、②、③の3段階に調節できます。

次のページへつづく

本機で対応するデジタル入力フォーマット

本機で対応するデジタル入力フォーマットは以下のとおりです。

フォーマット	対応／非対応
Dolby Digital	○
DTS	○
MPEG2-AAC	○
リニアPCM（2ch）*	○
リニアPCM（7.1ch ）48k*（HDMIのみ）	○
リニアPCM（7.1ch）96k	×
Dolby Digital Plus	×
Dolby True HD	×
DTS-HD	×

* リニアPCMは、48 kHz以下のサンプリング周波数に対応します。

アンプ部

定格出力
実用最大出力（非同時出力、JEITA*）
フロント部　70 W + 70 W、6 Ω
センター部**　70 W、3 Ω
サブウーファー部　120 W、3 Ω、100 Hz

* JEITA（電子情報技術産業協会）による測定値です。

**サウンドフィールドの設定によっては出力がない場合があります。

入力端子（アナログ）
TV　入力感度：420 mV
インピーダンス：30 kΩ
入力端子（デジタル）
TV、DVD　光
SAT/CATV　同軸、光

HDMI部

ビデオ入出力　BD、DVD、SAT/CATV：
640 × 480p、60 Hz
720 × 480p、59.94/60 Hz
1280 × 720p、59.94/60 Hz
1920 × 1080i、59.94/60 Hz
1920 × 1080p、59.94/60 Hz
720 × 576p、50 Hz
1280 × 720p、50 Hz
1920 × 1080i、50 Hz
1920 × 1080p、50 Hz
1920 × 1080p、24 Hz
オーディオ入力
BD、DVD、SAT/CATV：
リニアPCM7.1ch/Dolby Digital/DTS/AAC

フロントスピーカー部

形式
フルレンジスピーカーシステム、アコースティックサスペンション型
使用スピーカー
50 mmコーン型

センタースピーカー部

形式
フルレンジスピーカーシステム、バスレフ型
使用スピーカー
50 mmコーン型 × 2

サブウーファー部

形式
サブウーファーシステム、バスレフ型
使用スピーカー
100 mmコーン型 × 2

本体

電源　AC 100 V、50/60 Hz
消費電力　電気用品安全法による表示：95 W
アクティブスタンバイ（省電力機能がオン（入）、テレビの電源がオフ（切）のとき）：0.5 W以下
スタンバイ（HDMI機器制御機能がオフ（切）のとき）：0.3 W以下
外形寸法（幅／高さ／奥行き）
1,000 × 480 × 400 mm
（キャスタートレイ設置時）
質量　38 kg

付属品

光デジタルコード（1）
リモコン（RM-ANU031）（1）
単3乾電池（2）
結束バンド（1）
キャスタートレイ（4）
棚板（1）
棚板取り付け用ピン（4）
取扱説明書（1）
保証書（1）
ソニーご相談窓口のご案内（1）

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- 待機時消費電力　0.3 W
- 主なプリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません。
- フルデジタルアンプS-Master搭載によりアンプブロックの電力効率を85%以上に改善。

用語解説

ドルビーデジタル

ドルビーラボラトリーズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。ドルビーデジタルシネマ音声方式のような高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIは2チャンネルソースを5チャンネルで全帯域再生する。それを行うのが、ソースにない音や音の色付けを加えることなく、オリジナル録音の空間的特質を引き出す先進的で高音質のマトリックスサラウンドデコーダである。

AAC

BSデジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式。「アドバンスド・オーディオ・コーディング（Advanced Audio Coding）」の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現する。

DTS

DTS社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

次のページへつづく

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）

パソコン用ディスプレイなどで使用されているDVI（Digital Visual Interface）規格を拡張した次世代テレビ向けのデジタルインターフェース規格。映像と音声を1つのケーブルで、信号がデジタルのまま、劣化することなく伝送できる。デジタル画像信号の暗号化記述を使用した著作権保護技術であるHDCPにも対応している。

PCM

アナログ音声をデジタル音声に変換する方式。Pulse Code Modulation（パルス・コード・モジュレーション）の略で、手軽にデジタル音声を楽しむことができる。

S-Force PRO Front Surround

ソニーがこれまで蓄積してきた膨大な音響データを解析し、独自のDSP技術を加えて開発したフロントサラウンドの技術。音像の距離感、空間性をより忠実に再現することが可能となり、後方にスピーカーを置くことなく、前方のスピーカーだけで広がりのあるサラウンドを楽しむことができる。

S-Master

ソニーが独自に開発したデジタルアンプ技術。従来のアナログアンプに比べ、原理的にゼロクロス歪みが発生しない点をはじめ、高効率で発熱が少ないため、小型化が容易であるなど、数々の特長を備えている。

x.v.Color

"x.v.Color"とは、xvYCC規格に対応し、従来以上の広色域表現が可能な機器に付す名称としてソニーが提案している商標で、xvYCC規格とは、ビデオ映像信号の色空間の国際規格のひとつ。現行の放送などで使われている規格より広い色彩が表現できる。今までは表現できなかった鮮やかな花の色や、南国の海の美しい青緑色などを、より忠実に表現することが可能になる。

索引

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口	修理相談窓口
フリーダイヤル ··········0120-333-020	フリーダイヤル ···········0120-222-330
携帯電話·PHS·一部のIP電話 ··········0466-31-2511	携帯電話·PHS·一部のIP電話 ···········0466-31-2531
	※取扱説明書·リモコン等の購入相談は こちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389

上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「306」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Sony Corporation Printed in Malaysia

* 4 1 2 1 1 2 3 0 2 * (1)